

新緑の美しい季節となりました。
 スポフェスの練習がはじまり、お昼休みの
 メディアセンターはいつもより来館者が少なくなりました。
 静けさのなか、のんびり本を読む人、
 課題に取り組む人など、
 穏やかな時間がながれています。



■ 今月の新着図書から ■



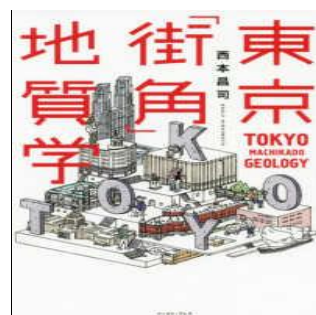
篠原匡 / 朝日新聞出版

貧困でホームレスになりそうな男性、外国人労働者、シングルマザーなど、地域で救いを求める人たちをけして見捨てない自治体がある。それが神奈川県座間市の生活援護課。NPO や社会福祉法人と「チーム座間」として連携し、型破りなサービスをおこなっている。自治体もやり方次第なのだと思います。



久手堅司 / 誠文堂新光社

気圧や気温、湿度などの変化とともに体調を崩すことはありませんか? 「天気が悪いとめまいがする」と言っても、ただのさぼり、と周囲から思われそうですが、めまいも気圧と大きく関係があるそうです。「気象病」という病名があるわけではありませんが、気象で心身の不調はおこることを理解しておきましょう。



西本昌司 / イーストプレス

都内を歩いていて、特に「石」に注目したことはありませんでした。でも建物の外壁だけでなく、デパートの床や、橋など、あちらこちらに石が見られます。池袋のフクロウの像「いけふくろう」も石ですが、栃木県の石を使っているということをこの本で知りました! 都内で歩きながら化石探検ができそうです。



『勿忘草をさがして』分類 913
 真紀涼介 / 東京創元社

あるトラブルでサッカー部をやめ、無気力になっていた航大は、1年前に自分を助けてくれた見ず知らずのおばあさんの家を探しているうちに、美しい庭を手入れしているぶっきらぼうな大学生の拓海と知り合う。以来、たびたび拓海のもとを訪れるようになった航大は……。植物と園芸がテーマのミステリー。



『ゴリラ裁判の日』分類 913
 須藤古都離 / 講談社

ゴリラのローズは、手話を覚えて人間と会話ができるようになりました。ところが動物園の檻に落ちた4歳の子どもを助けるため、という理由から、夫のゴリラを射殺されてしまいます。「人間ではないから、簡単に殺していい!」とローズは人間を相手に裁判をおこすことに。人間の命と動物の命とを裁判を通じて考えさせる。



『君が残した贈りもの』分類 913
 藤本ひとみ / 講談社

数学が得意な上杉が偶然公園でみかけた野球部のエース片山。お互いに才能を認め合っていたが、片山は病で亡くなってしまふ。彼が命を削っても成し遂げたかったことはなんだったのか? 上杉は彼の目的を探りながら、エースを失った野球部を甲子園に出場させるために奮闘することに。まさに青春小説!

英字新聞

The New York Times weekly が入るようになりました!

メディアセンターではこれまで英字新聞は“The Japan Times alpha”だけでしたが、4月から“The New York Times Weekly”が加わりました!

こちらの方が英語の難易度は高いので、英語アドバンスの皆さん、ぜひ閲覧ください。また、当日の新聞はすべて机の上に平置きすることにしました。一面の記事がみやすく、新聞によって同じ日でも取り上げる記事が違ってくるので、読み比べにもぜひどうぞ。



▲当日の新聞は毎日平置きにしました

●今月の主な館内展示

「本屋が舞台の小説&ノンフィクション」展

今月は、本屋さんがテーマの小説とノンフィクションの本を館内入り口脇で展示しています。

今や電子書籍でも本が読める時代となり、町の小さな書店がどんどん姿を消しています。私が子どもの頃、駅前には3軒ほど本屋さんがあり、気軽に立ち寄っていました。今ではいずれもなくなってしまい、大型書店しか生き残れない時代となってきたことを少し寂しく思います。

でも小説のテーマとしては、「本屋さん」や「古本屋」が舞台のミステリーや恋愛ものなどは色々あります。ぜひ本屋さんでテーマの本を読んで、たまに近くの本屋さんにも足を運んでみてはいかがでしょうか。



『金曜日の本屋さん』名取佐和子 角川春樹事務所

『平台がおまかせね』大崎梢 創元社

『ミュゲ書房』伊藤調 角川書店

『ペナンブラ氏の24時間』ロビン・スローン 創元社

『書店主フィクシーのものごと』ガブリエル・ゼヴィン 早川書房

『奇跡の本屋をつくりたい』久住邦晴 ミシマ社

など、このほか多数!

本棚 五月の上旬に、卒業生が「有休がとれたので」と学校を訪れ、メディアセンターにも顔を出してくれました。すでに社会人として多忙にもかかわらず、貴重な休暇に母校を訪問しようと思ってくれたことが嬉しく、懐かしい昔話に花が咲きました。話のなかで今度同級生同士の結婚式に参列すると聞き、急きょ二人にあてたお祝いのメッセージカードを書き渡してもらうことにしました。すると後日、そのカードを手にした新郎新婦の画像が送られてきたのです。満面の笑顔にこちらまで幸せを分けてもらったような心あたりました。中高生だった頃の面影もあり、教育現場の図書館で働いていて本当に良かったです(渡邊)